

式 辞

ただ今、入学許可をしました二四〇名の新入生の皆さん、おめでとうございます。皆さんの入学を、本校教職員を代表して心から歓迎いたします。

校舎を囲む木々の緑が色鮮やかになり、春の息吹を感じる今日の佳き日、大分県立大分豊府高等学校第三十七回入学式を挙行できますことは、本校にとりましてこの上ない喜びであります。

本日はご多用の中、大分豊府中学校・高等学校 PTA、会長の永野謙吾（ながのけんご）様、大分豊府高等学校同窓会、会長の倉掛賢宏（くらかけまさひろ）様のご臨席を賜りました。高いところからではございますが、衷心より御礼申し上げます。

さて、この大分県立大分豊府高等学校は、一九八六年、今から三十六年前に開校しました。それ以来、「感動 理知 友愛」を校訓に掲げ、多くの有為な人材を世に送り出してきました。二〇〇七年には大分県立大分豊府中学校も開校され、今では同じ敷地内に校舎がある併設型の中高一貫校になりました。ここで学ぶ生徒たちは、勉学は勿論のこと、様々な学校内外の活動に積極的に取り組む意気発酵とした高等学校です。皆さんにも、そうした学校の校風を受け継ぎながら、充実した三年間を送ってほしいと思います。

そのために、私はこの会場の右前方に掲げられている校訓から、皆さんの心に留めておいてほしいことを、話したいと思います。

まずは「感動」です。それは、何かを見て、触れて、あるいは知って、その時の心の中に湧き上がってくる心地よさであり、その時の魂の揺さぶりが「感動」です。この言葉は、大分豊府高校の生徒への「学校生活や人生を感動あるものにして欲しい」という願いではないかと思えます。

それでは、どうすれば自分をその感動の場面に立ち合わせることができるのでしょうか。それは自分から動き出すことです。「感動」は、何もしなくてじっと待っている人のところにやって来るほど、お人よしではありません。自分の意志で、自分の力で感動の場面に自分を連れて行くしかないのです。

次の「理知」は、本能や感情に流されずに物事を論理的に考えることです。そのためには「疑う」ということがポイントになると思います。「人に対して疑い深くなれ」と言うものではありません。「このままで良いのだろうか」「本当にこれが正しいことなのか」「もっと他には方法はないのだろうか」と、自分自身に問いかけるのです。「疑問」を持つから、人は考えるし視野が広がるのです。そして、見える世界が広がってくるのです。

そして「友愛」、この言葉は十八世紀末に起こったフランス革命の重要な理念の一つでした。それは、自分の自由と尊厳を大切に守ること、そして、他の人の自由と尊厳も大切に守ることです。

今、国内外の様々な出来事を見ますと、自分と異なる考え方や、それを伝える声に耳を傾けようともせず、そればかりか、相手を力で押しつぶそうとする対立が多くなりました。

その昔、今のインドはイギリスの植民地でしたが、その独立のために民衆の先頭に立ったマハトマ＝ガンジーはこんな言葉を残しています。「固く握った拳とは、手をつなげない」と。心の中に固く握った拳

を持っていては、人は絶対に握手なんかできません。

この大分豊府高校には、君たちが人間的に成長するための多くのチャンスがあります。各地の中学校から入学してきた生徒たちと、大分豊府中学校から進学してきた生徒たちが、日々の学習に、部活動や学校行事に、そして生徒会活動やホームルーム活動に取り組んで、互いに切磋琢磨して欲しいと思います。その中から君たちは、きっと「感動」の場面に立ち会うことができると思います。そして「理知」的に考え行動しながら自分の視野を広げて下さい。そして、この大分豊府高校に「友愛」の旗を掲げて欲しいと思います。

それが、本校全ての教職員の君たちへの願いであり期待なのです。私は君たちがこの高校で学んでよかったと心から思えるよう、先生方と全力で教育活動に取り組んでいくことを約束します。一緒に頑張っていきましょう。

保護者の皆様に一言申し上げます。本日のお子様のご入学、誠におめでとうございます。本日から大切なお子様を、責任を持ってお預かりいたしますが、高校時代は多感な思春期の真ただ中にあり、自分の進路を考える時でもあります。高等学校の教育が成果を上げるためには、ご家庭と学校の相互理解が一層大切になると考えています。どうぞ、保護者の皆様とわたくしたち教職員の連携が深まっていけますようご協力をお願い致します。

結びになりますが、大分豊府高等学校第三十七回生にとってこの高校での生活が、充実した実り多いものとなることを心から願い、式辞と致します。

令和四年 四月 九日

大分県立大分豊府高等学校

校長 辛島 信昭